



〈雑録〉印度幣制ニ關スルメルワンヂー・ダラル氏ノ 少數報告(2)

尾上, 利治

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 30(6):1008*-1021

(Issue Date)

1921-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053327>



國ニ於テ帝國主義ト經濟的利益ト相衝突スル場合ニモ佛蘭西ハ讓歩ヲナスコトヲ嫌ハザルベシ
從テ亦若シ獨逸ニ於ケル英國狂ガ多ク過去ニ
辛キ經驗ヲ嘗メタルニ拘ハラズ更ニ英國ト同盟
スルヲ利益ナリト論ズルナラバ彼ハ英佛兩國ノ
同盟ノ性質ヲ充分ニ了解セルモノトイフベキナ
リ。今日ノ英國ノ議會ガ他ヨリ影響ヲ受クルコ
ト大ナリト雖モ同國ノ對外政策ノ方法ニハ何等
ノ變更ヲ受クルコトナカルベシ。蓋シ其ノ政策
ヲ維持スベキ根蒂ノ依然存續スルモノアレバナ
リ。從テ再三本誌ニ論ジタルガ如ク獨逸ガ露西
亞ニ對スル其ノ經濟關係ヲ可及的迅速ニ恢復ス
ルコト並ニ同國ガ其ノ舊地位ヲ恢復スル爲メニ
南米市場ニ於テ英國ト行動ヲ共ニスルヨリモ一
層利益ノ大ナル大自由國ノ北米合衆國ト同盟ス
ルコトノ二者ハ獨逸ニ取リテ利益アル所トイフ
ベキナリ。

一九二二、三、二六

印度幣制ニ關スルメルワ

ンデー・ダラル氏ノ少數

報告 (其二)

商學士 尾上利治

第五 金爲替本位制

金爲替本位制ノ作用ヲ點檢スルニ先テ印度貨幣制度ニ反對說ヲ引證スル要アリ。

英蘭銀行總裁ハ交換ノ媒介タルベキ金ガ其本職ヲ盡サズシテ却ツテ蓄藏ノ媒介トシテ使用セラレツ、アルコトヲ非議シテ曰ク「之レ當ニ金ノ濫用ナル而已ナラズ其蓄藏者自身及ビ印度全體ノ不利益ナリ。若シ金ノ輸入ニシテ貿易殘高決濟ノ爲メ必要ナリトセバ英國ノ前例ニ倣ヒ有利ナル形式ニ於テ之ヲ海外投資ニ振向クベキコト印度全體ノ利益ナルベシ、單ニ貿易殘高ノ爲ニ無制限ニ金ヲ需要ストセバ帝國政府ハ之ニ對シ多少ノ制限ヲ加フルノ理由アルベク又戰時中印度ハ金ノ供給減少シタルモ適宜之ニ善處シタ

ルガ如ク今後モ爾ク處ス能ハザルノ理由ナシト
謂フベカラズ。ト

由是觀之英蘭銀行總裁ハ印度モ英國ノ轍ニ倣
ヒ金ノ使用ヲ節約セザルベカラズト思惟スルコ
ト明カナリ。英國制度ノ長短ハ姑ク措テ問ハズ
其國內流通用トシテ金ノ節約セラレタルハ政府
ノ方策或ハ貨幣法制ト何等ノ關係ナク銀行對顧
客取引タル預金小切手制度ノ發達セルコト最大
ノ原因ニシテ亦外國爲替殘高ヲ海外投資ニ轉換
スベキ方法ノ發達セルコトモ自然的ニ金ノ輸入
ヲ尠カラシメタリ。然ルニ今印度ニ對シ此制度
ヲ適用シ果シテ適當ナルヤ否ヤニ關シテハ印度
人民ト英國人民トノ間ニ存スル心理學上ノ差別
ヲ會得スル所ナカルベカラズ印度人ハ過去數世
紀間私有財産ノ不安固ヲ痛切ニ經驗シ來リシ歷
史ヲ有ス彼等ハ自ラ蒐メタル財産ヲ可成隱匿ス
ベク境遇ノ力ニヨリ餘義ナクセラレ來リシ人民
ナリ、之ニ反シ英國人ハ島國民トシテ安全ナリ
シ誇ルニ足ル長キ歴史ヲ有ス彼等ハ獨立ノ民ニ

シテ其企業ハ全世界ヲ掩ヒ到ル所有利ナル放資
ヲ爲シ得タルハ獨リ母國ノ利益トスル所ナル而
已ナラズ彼等自身モ均シク利益ト爲シタル所ナ
リ故ニ英國民ガ其政府ト關係ナク全節約ノ方法
ニ慣行セルハ其國民性並ニ歷史上ノ安全ニ職由
スルモノリレバ之ヲ以テ傳習ノ異ナル印度人ヲ
律セントスルハ當ラズ。

勿論印度人民中金ヲ死藏スルモノナキニアラ
ズ之レ財産不安ノ舊キ傳習ガ彼等ヲ驅ツテ斯ク
爲サシメタルモノナレドモ又金ト交換セラレザ
ル國內名目貨幣ガ新シキ形式ノ下ニ流通スルニ
至リタル爲メナラズンバアラズ。

國內貨幣ニ關シテハ印度ハ英國ノ方法ニ從ヒ
特ニ紙幣ト小切手ノ形式ニ於テ著ルシク發達ヲ
成シ遂ゲタリト雖モ其硬貨準備ノ點ニ至リテハ
及バザルコト遙ニ遠シト云バザルベカラズ。

印度ハ現在ハ勿論將來永ク信用貨幣ノ背景トシ
テ鞏固ナル硬貨準備ヲ要スベキモ之ヲ以テ直ニ
輸出超過ニ對シ硬貨ノ仕拂ヲ要スト謂フベカラ

ズ英蘭銀行總裁ガ印度ハ英國ノ鑾ニ倣ヒ輸出超過殘高ヲ海外ニ投資スルニ若カズト説ケルハ印度幣制上ノ弱點ニ觸レタルモノニシテ硬貨殊ニ金ニ對スル需要過多ヲ回避スベキ眞ノ救済策ヲ

指示シタルモノナリ、從來採ラレタル方策トシテハ倫敦ニ於テ制限ナク留比手形ヲ賣出スニアリテ或ル程度迄貿易殘高ノ決濟ヲ幫助シタリシナランモ印度ノ海外投資ニ關シテハ個人ノ自由ニ一任シ何等之ヲ獎勵スベキ手段ヲ講セザリキ然レドモ貿易殘高決濟ノ爲メ硬貨ヲ吸收スベキコト不可ナリトセバ唯餘ス所海外放資ヲ試ムルカ若クハ他國ヲシテ印度ニ於テ借入金ヲナサシムルヨリ外途アルベカラザルナリ。戰爭ハ印度ニトリ其實貿易殘高ヲ英國ニ貸付クベキ絶好ノ機會ヲ提供シタレドモ其機會ハ遂ニ捕捉セラレザリキ其理由トシテ傳ヘラル、所ニヨレバ印度ノ戰費ニ貢獻シタル一億ノ金ニ對シ公債ヲ募集スルコト困難ナリシニ因レリト、然レドモ眞因ハ當時英國政府ノ募債ト同様ノ好條件ナク利率ノ

如キモ多少低率ナリシヲ以テナリ印度ハ資金豊富ナルニ拘ハラズ之ヲ投資ニ利用スル能ハズトハ一般ノ觀念ナレドモ條件ト擔保如何ニ依リテハ必スシモ然ラザルベシ。

今ヤ留比ト「ソベレン」トノ標準比價破レ之ニ伴フ動搖ト不安ノ念彌漫セルヲ以テ印度ガ外國ニ投資ノ途ヲ求ムベキ機會モ從前ニ比シ尠クナリシ譯ナリ之ニ加フルニ印度ノ資本ヲ脅威スベキ對外問題アリ例ヘバ外國ノ租稅資本ノ徵收及ビ不自然的貨幣膨脹ニ基ク價值膨大等ノ如シ然レドモ外國殊ニ英國ノ公債ヲ印度ニ於テ募集スルモ尙同様ノ結果ヲ免レズ。

然レドモ一面ヨリ觀ル時ハ現制度下ニ於テ印度ハ紙幣發行ニ對シ保有セル投資物件ニヨリ事實上外國投資ヲ爲シツ、アルモノナリト謂ヒ得ベシ只斯ル投資物件ハ無利息ニテ印度人民ヨリ強制借入金ヲナシ若クハ印度人民ノ貨幣上ニ租稅ヲ課セルト同シキモノナレバ反對ノ餘地アルベク余ハ英蘭銀行總裁ガ斯ル意味ニ於テ印度ノ

對外投資ヲ勸奨セラレタルモノナリト思惟スル能ハズ。

金爲替本位制ノ作用ヲ述ブルニ當リ印度ノ貨幣本位ハ多年間一般人士ニヨリ絶ヘズ論爭セラレタル問題ナリシコトヲ記スノ要アリ印度ノ貨幣本位ガ金本位ナルヤ將タ又金爲替本位ナルヤニ付意見ノ懸隔アリシコトハ曩ニ述ベタリ、然レドモ斯ル論爭ノ餘地アラシメタルコトハ夫レ自身既ニ望マシカラズ貨幣本位ノ如キハ何等疑問若クハ論爭ヲ起サザル様決定セラルベキナリ余ハ印度ノ貨幣本位ハ一對十五ノ制定比價ヲ有スル「ソベレン」對留比ナリトノ見解ヲ把持セント欲ス。

此制定標準ニ對照シテ金爲替本位ハ何等法律上ノ効力ヲ有スルモノニアラズ其意義ノ如キ明確ヲ缺キ實際ノ運用ニ關シテモ當局者ノ自由裁量ニ一任セラレタルガ而カモ尙今日迄留比ト「ソベレン」トノ法定比價ヲ尊重シ來リタリ。即チ其運用方法トシテハ一方ニ於テ印度ノ對外支拂

ニ必要ナル額丈ケ國內貨幣ヲ英貨ニ換フルノ絶對的安全ヲ供與シ他方ニ於テ金額上無制限ニ印度宛留比手形ヲ賣出スニアリキ。對英貨爲替ノ維持ヲ目的トスル點ニ於テ戰前英國ガ現送點以內ニ爲替相場ヲ維持シタル所ニ酷似スレドモ無制限ニ印度向手形ヲ賣出シタルコトハ必ズシモ彼ト同ジカラズ。英國ハ銀行歩合ノ上下ニヨリ國內信用貨幣ノ膨脹量ヲ制限シ金準備金ノ限度ニ適合セシメタリキ。

名目貨タル留比ヲ無制限ニ發行スルコトハ或ル意味ニ於テ留比ガ「ソベレン」ト共ニ完全ニ法貨タル結果ナリトモ思考セラレ得可シ。往時銀本位ノ下ニ於テ留比貨ハ固ヨリ法貨ナリシガ本位ノ變更セラレタル以後ニ於テモ巨額流通シタルノ故ヲ以テ依然之ヲ存續セシムルコト必要ナリキ。然レドモ今ヤ「ソベレン」モ法定本位貨タル點ヨリ見テ莫大ナル名目貨幣ヲ増發スルコト妥當ナリヤ否ヤハ別個ノ事柄ナリ。實際國內用ノ需要以上ニ際限ナク之ヲ發行スルコトハ公衆

ノ所持セル貨幣ニ一種ノ租稅ヲ課スルニ等シ。
之レ印度ニ於テ金及ビ磅金貨ニ對シ非常ノ需要
アル所以ナリ。換言スレバ印度人民ハ過度ニ供
給セラレタル名目貨幣ヨリモ十全ノ價值ヲ備フ
ル金ヲ蓄藏スルニ若カザルナリ。

而カモ此蓄藏セラレタル金ヲ使用スル時ハ名
目貨ヨリ成レル流通貨幣ノ爲メ影響ヲ受クルヲ
免レザルヲ以テ有利ニ使用ノ目的ヲ遂行スルコ
ト能ハズ所有者自身ノ利益並ニ國家全體ノ利益
ニ副ハザルノ憾アルモ止ムヲ得ザルナリ。

實際國內用ノ需要以上ニ際限ナク留比貨ヲ發
行スルコトハ公衆ノ所持セル貨幣ニ一種ノ租稅
ヲ課スルニ等シト云ヒタルガ更ニ非難セラルベ
キ點アルコトヲ附記スルノ要アリ即チ此課稅額
ニ等シキ金鑄造費ト銀鑄造費トノ差額ハ印度財
政部ノ所得タラズシテ倫敦ニ於ケル金準備若ク
ハ投資準備トナリ特別ナル一定相場ニヨリ倫敦
向送金ノ支拂ニ供セラル、コト之レナリトス。

然レドモ方今有利ニ留比ノ鑄造ヲ爲ス能ハサ

ル爲メ此課稅ノ變態モ事實上中止ノ姿ナリ只之
ニ代ルベキ反應作用トシテ最近金爲替本位制ノ
發展ハ英國向爲替相場ヲ引上ゲシメ舊來ノ法定
比價ヲ覆ヘシタル結果既ニ課稅セラレタル金留
比貨ノ商業的價值ヲ著ルシク減少セシムルト共
ニ印度ノ財政狀態並ニ經濟生活ヲモ一變セリ。
更ニ此最近ノ變遷ハ一片ノ法文ニヨリ債權者
對債務者關係ヲ破壞シ在來ノ地位ヲ攪亂セシメ
タリ。現在印度ニ於ケル貴金屬保有額(紙幣發行
ニ對スル金準備ヲモ含有ス)ハ他國市場價格ニ
比較シテ留比ニヨル計算價格ヲ減少スベク印度
產物現在高モ同ジ減價ノ運命ニ逢着スルヲ免レ
ズ此產物價格ニ及ボス影響ノ結果トシテ從來既
ニ生活難ヲ啣チ來レル幾千萬ノ印度農民ハ將來
ニ亘リ益々苦痛ヲ増シ生活ノ脅威ヲ感ズル者寡
カラザルベシ。更ニ外國工業トノ競爭ニ於テ印
度ノ工業ハ彼ニ一籌ヲ輸スルニ至ルベク從テ印
度ノ繁榮ヲ阻碍スルコト多大ナルモノアラン。
唯爲替相場ノ強氣ヲ維持スル間少キ留比ヲ以テ

本國向送金ヲ爲シ得ベキガ故ニ政府ノ財政ハ救濟セラルベク亦輸入品ヲ購買スルモノ或ハ海外向支拂ヲ爲スモノニトリ有利ナルハ勿論ナリ。

尙一利益トシテ印度ノ物價騰貴ヲ緩和スルノ結果ヲ招致スベシト唱ヘラレタルガ印度產物ノ價格ニシテ海外市場ニ左右セラル、モノハ其留比價値ヲ低下スベキガ故ニ此點ヨリ見ル時ハ然ルベキモ物價ヲ低落セシムベキ方法トシテ適當ノモノナリヤ否ヤハ問題ナリ。

物價ノ高低ニ關シテハ貨幣ノ膨脹ヲ考量セザルベカラズ。從來印度ニ於テハ不自然的貨幣ノ膨脹ナク只輸出ノ輸入ニ超過シタル結果トシテ生ジタル實際ノ膨脹アル而已。紙幣發行ニヨル強制借入金スラ英國政府ノ支拂フベキ商品代金ヲ表示セルモノニ過ギズ。標準比價ノ變更ニ依リ物價ハ留比ニテ計算セラル、ガ故ニ低落スベシ然レドモ物價ヲ低落セシムル爲ニ貨幣本位ヲ更改スルノ理由ナシ之ニ反シ他國ニ於テハ同様ノ結果ヲ取得スル爲ニ不自然的膨脹貨幣ヲ一掃

スルノ理由アリ。管見ニ依レバ印度ニ於ケル貨幣ノ膨脹ハ物價騰貴ノ原因ヨリモ寧ロ其結果ナリ。貨幣ノ膨脹シタルハ輸出超過ノ貿易殘高ヲ決濟センガ爲メニシテ而シテ此貿易殘高ノ増加シタルハ輸出商品ニ對シ支拂ハル、代價ノ増加シタル爲メナレバ貨幣ノ増大ハ物價騰貴ノ結果ナリト云フ方當レリ他方ヨリ見テ亦貨幣ノ膨脹ハ結局物價ヲ騰貴セシメタリト云フ能ハザル所以ハ各種ノ貨幣ハ大規模ノ下ニ蓄藏セラレ此蓄藏セラレタル貨幣ハ物價ニ影響ヲ及ボスニ由ナケレバナリ。故ニ法定比價ノ變更ハ留比ニヨル物價ヲ下落セシムベキモ其物價騰貴ノ眞因ニ觸レタルモノト云フ能ハズ。然ラバ其眞因トハ何ゾヤ曰ク世界の物價騰貴ノ影響ニシテ而シテ此世界の物價騰貴ハ主トシテ多數國ノ貨幣ガ人爲的ニ膨脹セシメラレタル結果ニ外ナラズ。物價下落ノ故ヲ以テ比價變更ノ一理由トナスガ如キハ驚ヲ烏トシテ國民ヲ欺クノ太ダシキモノト謂ハザルベカラズ。

比價ノ變更ガ海外ノ諸國ニ如何ナル影響ヲ及ボスベキヤハ明確ニ計量スルコト能ハザレドモ恐ラク留比ノ對英貨價值昂上ノ爲メ印度產物ニ對スル需要ハ減少スベク之ニ反シ少キ留比ヲ以テ印度ヨリ送金ヲナシ得ベキヲ以テ輸入ヲ刺激スルニ至ルベシ。若シ此豫期ニシテ實現センニハ印度ノ貿易尻ハ從前ノ如ク金額ノ輸出超過ヲ現出スル能ハザル而已カ却ツテ反對ニ輸入超過トナルナキヲ保ス能ハズ。而シテ其曉ニハ印度國際貿易最後ノ決濟場タル倫敦市場ハ亦從來ノ如ク多額正貨ヲ現送スルノ必要ナキト共ニ英國製織物ニ對スル需要増加ノ結果印度向輸出ヲ擴大スルニ至ルベキ歟。

印度貨幣制度ノ革命的變更ニシテ事情定ニ止ムヲ得ザルニ出ツトスルモ商品代金トシテ巨額ノ金高ヲ取得スベキ秋ニ當リ之レヲ敢行スルノ要存シタルヤ之ヲ辨明スルモノハ政策上印度ヲシテ其貿易尻ヲ出來得ル限り留比ノ形式ニテ受領セシムルコト必要ナリキト爲セドモ果シテ能

ク其所期ノ目的ヲ達シタルカ問題ナリ假令其政策ノ必要ヲ認容スルモ現在ノ特別狀態ニ鑑ミ他ニ適當ナル方法ヲ講ズルノ餘地ナシト云フベカラズ例ヘバ英蘭銀行總裁ノ說キシガ如ク印度ノ有スル債權ヲ海外ニ投資スルノ途ヲ開拓スルガ如シ現在採ラレントスル政策ハ實際金本位ノ完全辯別言スレバ名目貨ノ發行ヲ制限スベキ機能ヲ無視シタル上單純ナル行政上ノ手段ニヨリ法定ノ金本位制度ヲ金爲替本位制ニ變更シ金貨ニ代フルニ名目貨ヲ以テ爲替ノ維持ヲ計ル所以ト爲セリ。勿論爲替ノ維持ヲ計ルコト夫レ自身ハ主要ナル目的ナリシナランモ銀貨ノ暴騰ニ伴ヒ實際ニハ平常ノ爲替相場ヲ去ル遠キモノトナレリ爲替ノ維持ガ爾ク容易ニ拋棄セラレ留比手形ノ賣却ト名目銀貨ノ膨脹トノ俱ニ繼續シタルコトハ爲替ノ安定ガ表面上ノ目的ニシテ實際ノ目的ハ印度ヲシテ金ノ代リニ銀ヲ取得セシムルニアリシテフ理論ヲ裏書スルモノナリ。更ニ現在ノ政策ハ印度市場ヲ倫敦市場ニ益々接近セシメ

第六 政 策

倫敦市場ノ利子ガ其政策運用ノ及ボス影響ヲ免ル能ハザリシコトハ印度ニ屬スル如何ニ巨額ノ投資ガ倫敦ニ於テ蓄積セラレツ、アルカヲト知スルニ足ルベシ、蓋シ銀鑄造利益ハ倫敦ニ於ケル金本位準備金中ニ確實ニ振込マレタレバナリ而シテ今ヤ銀鑄造ハ有利ナラザルニ至リタルヲ以テ之ニ代フルニ在倫敦投資擔保ニ對シ印度ニ於テ紙幣ヲ發行スルノ新法案出セラレ其結果倫敦ニ於テ巨額ノ印度勘定ヲ見ルニ至リタリ是等ノ變遷ガ將來如何ニ推移スベキヤハ正ニ張目擔視セン而已。

印度ハ當然健全ナル貨幣制度ヲ享クルノ權アリ金爲替本位制ハ既ニ其資格ヲ失ヒタレバ余ハ其存續ヲ希ハズ亦前ニ失ヒタル安定ヲ取得セン爲メ提說ヲナサント欲スルモノニ非ズ然レドモ當局者ガ爲替相場ヲ引上グルノ行動ヲナスノ權ナキコトヲ思惟スルト共ニ既ニ彼等ガ爲シタル所ヲ屑ク改ムベキコト彼等ノ義務ナリト信ゼント欲ス。

中政策問題ニ就テ余ノ謂ハント欲スル所ト共鳴スル點少カラザルガ故ニ左ノ拔萃ヲ掲ゲテ本項ノ全文トナセリ。

「印度大臣ガ現在印度ノ爲替上ニ施行シツ、アル管理ハ早速廢止セラルベキモノナリ官憲ガ爲替ヲ管理スルハ常ニ惡事ニシテ唯戰時緊張セル事情ノ下ニ於テハ多少斟酌スベキ點ナキニ非ザリシモ現在ニ於テハ絶對的必要ナキ限り一刻モ存續セラルベキニアラズ他ノ諸國ニ於テハ疾ニ廢止セラレタレバ印度ニ於テモ踟躕猶豫スル所ナク斷行セラルベシ之レ財政上ノ提題トシテ眞理ナル而已ナラズ印度ノ政治狀態ニ關シテモ特ニ眞理ナリ印度政府殊ニ印度大臣ノ行動ハ印度社會多數ノ眼ヨリ見テ腑ニ落チザル點多ク正解セント欲スルモ動モスレバ誤解ニ陷ラザルヲ得ザルナリ。彼ハ印度中心市場ヲ去ル六千哩ノ所ニ在リテ行動シ印度夫レ自身ノ利益ヲ考慮セ

ザル者ニヨリ圍繞セラル、ガ故ニ自然其者ノ意見ヲ採リ易シ。彼ハ暗々裡ニ行動シ如何ナル政策ノ適用セラルベキカハ之ヲ知ルニ由ナケレバ斯ル狀態ヲ一掃スルノ良案トシテハ彼ヲシテ印度ノ爲替及ビ貨幣ト手ヲ切ラシメ自然ノ趨クガ儘ニ放任セシムルニ若カズ從テ爲替相場ノ公定並ニ「カランレル」手形ノ制限ヲ再ビ繰返スノ要ナシ後者ノ如キ之ヲ一般入札トナシ唯其最少限度ヲ一萬留比トナスヲ可トスベシ但シ此方策ニモ多少ノ不便伴フベキモ印度ノ利益ヲ倫敦銀行ニ壟斷セシメタル在來ノ政策ニ優ルコト萬々ナルモノアラン。

先ヅ政策ノ第一歩トシテ實行セラルベキハ印度ニ於ケル地金銀ニ關スル制限ヲ撤回シ其自由ナル輸出入ニ委セシムルニ在リ各債權國ハ其債務ノ支拂ハルベキ形式ヲ決定スルノ特權ヲ有ス而シテ印度ハ現在債權國ニシテ恐クハ今後モ依然債權國タルベシ同時ニ印度ハ地金使用國ナルニ拘ハラズ金ノ流入ヲ阻止シ輸出超過尻ノ決済

方法トシテハ在外信用ノ設定ヲ以テセリ之レ今日爲替並ニ貨幣ニ關聯シテ諸種難問題ノ續發シタル所以ナリ。印度ハ金塊ノ供給ヲ絶タレタル結果トシテ勢ヒ國內ニ於テ取得シ得ベキ地金銀而已ニ倚ルコトヲ餘義ナクセラレ巨額ノ鑄造留比貨ヲ吸收シタリ。去レバ地金ニ對スル此傳來的需要ノ満足セシメラレザル限り印度ニ於テハ財政上健全ナルモノアリ得ザルベシ。故ニ一九一三年オースチン・チエンバレン氏ニヨリテ主宰セラレタル幣制委員モ惟フニ印度ノ金ヲ使用スベキ範圍ハ單ニ印度自身ノ必要ト希望トニヨリ決定スルヲ要スベシ而シテ印度ニ金貨ヲ強制的ニ流通セシムルヲ他ノ金使用國ニモ好影響ヲ與フベキヲ以テ不公平ノ如クニシテ公平ナルベシ反對ノ徒ガ印度内ニ於ケル金ノ洪水ト稱ヘシモノヲ防グ爲メニハ金取得ノ方法ニ多少ノ手加減ヲ加フルヲ以テ足レリト聲明シタルニ非ズヤ、印度ハ地金屬ヲ吸收スルコト底無シ井戸ノ如ク一度入りタルモノハ決シテ出デ來ラズトハ

往々耳ニスル所ナリ然レドモ之ニ對シテハ殊更ニ辨解スル迄モナク印度ハ尙文盲ノ國ニシテ信用並ニ銀行制度未ダ整備セズ金銀裝飾物ニテ多少ノ貯蓄ヲナスノ遺習ヲ有スル數世紀間時代遅レノ邦家ナリト云フヲ以テ足レリ。三億五千萬ノ人口ガ社會上ノ習慣トシテ及ビ工業技術用トシテ戰前地金ヲ使用シタル平均量ハ一年約一千万ナリ然ルニ一方亞米利加合衆國ハ工業用ノ目的ニ一ヶ月百万磅ノ金ヲ消費シツ、アルトノコトナレドモ之ニ對シ同ジク底無井戸ノ例ヲ以テ亞米利加ヲ攻撃シタルモノアルヲ聞カズ英國ニ於テモ戰時最モ盛大ヲ極メタル商業ノ一ハ低價ノ寶石類ニシテ勞働階級ハ増額所得ノ大部分ヲ之ニ投下シタリト傳ヘラル。要スルニ世界各國工業用並ニ裝飾用ノ目的トシテ金銀ヲ使用セザルモノナリ同様ノ目的ヲ有スル印度ノ需要而已ガ限リ知レザル死藏ナリト曲解セラル、ハ皮相ノ觀察ニシテ不當ノ短見ナリト云ハザルベカラズ況ンヤ一般文明程度ト信用制度ノ發達セル西

洋諸國ニ比シ異ナレル歴史ト狀態トハ金吸收ヲ促スニ至レル相當ノ理由アルニ於テオヤ

將來他ノ政策ヲ運用スルニ當リテモ其成否ハ公衆ノ之ヲ知ルト知ラザルトニ負フ所多キコトニ覺悟セザルベカラズ。

從來印度政府ノ政治事情ニ據ル特別ノ難問題ニ逢着シ其度毎ニ不信誤解偏執ノ謗ヲ招キタリ印度人ト接觸シ金融市場ニ通曉スベキ印度政府ニシテ既ニ然リ印度人ノ思想感情ヲ知ルニハ餘リニ遠ク隔リタル印度大臣ガ適當ノ政策ヲ案出スルニ由ナキハ敢テ怪ムニ足ラズ經驗ノ教フル所ニ依レバ印度ニ於テ誤解ヲ防グ唯一ノ救濟策ハ凡テノコトヲ公開シテ一般ニ周知セシムルニ在リ。誤解ト不信トヲ避クル方法トシテハ此真理ヲ措テ他ニ之ヲ求ムルヲ得ザルナリ政治上非常ノ危險ヲ包容セル最モ遺憾ナル誤解ノ陰翳ハ印度大臣ガ其財政々策ヲ管理スルニ當リ常用シタル秘密政策ニ依リ釀成セラレタリ。此陰翳ハ一般ニ發表セラルベキ手段ニ依リテ而已一蹴シ

去ラルベシ。別言スレバ印度大臣ニヨリテ運用セラル、財政々策ハ正々堂々ト公開セラルベク貨幣並ニ爲替ニ關シテハ出來得ル限り干涉政策ヲ熄メ自働的作用ヲ以テ之ニ代ユベキナリ。

若シ自由公開ナル爲替ニシテ自動的トナリ「カウンシル」手形ノ賣買ニシテ最高ノ入札者ニ供與セラル、ニ至ランニハ公開ノ精神ハ半バ達成セラルベキモ尙半バ他ニ實行セラルベキコト存セリ开ハ即チ印度政府ノ爲メニスル銀購入モ公開入札ニヨリ孟買ニ於テ受渡セラルベキコト之レナリトス。之レ世界諸地方ヨリ產出スル銀ヲ孟買ノ地金市場ニ吸收スル所以ナル外從來銀ノ買入ニ懸リタル疑雲ヲ一掃セシムル唯一ノ方法ナレバナリ。印度政府ノ企畫シ實行スル貨幣並ニ爲替ニ關スル凡テノ事項ハ適當ナル形式ニヨリ屢々且正規ニ發表セラル、ヲ要ス印度ノ財政上ノ地位ハ公開セラル、モ何等懸念スベキ點アルベカラズ公開ハ外ニ對シテハ信用ヲ強メ内ニ對シテハ印度政府ノ地位ヲ鞏固ナラシムベキ

一大器械ナリ。眞理ハ時ノ古今ヲ問ハズ有力ナリ。」(Magna est veritas et floveabit) 然レドモ印度ノ管轄省ノ門内ニ幽閉セラル、眞理ハ遂ニ表現セラル、ニ由ナカルベシ。」

第七 追補諸問題

(一) 銀輸入税惟フニ印度ニ輸入セラル、銀ニ對スル課税ハ貨幣政策ト密接ノ關係ヲ有シ印度人民ノ經濟的發達ヲ阻害スルモノ、如シ此問題ハ私人ノ銀輸入ガ制限セラル、間ハ課税ノ餘地存セザルヲ以テ何等重要ナルモノニ非ザレドモ一度此ノ制限ニシテ撤回セラル、時ハ輸入税ハ徒ニ多數人民ノ少額貯蓄ニ課税スルノ結果ヲ齎スベシ。固ヨリ多數ノ印度人ガ辛ジテ蓄積シ得タル少許ノ所得ヲ以テ銀裝飾品ノ如キ不生產的手段ニ投スルハ褒ムベキ事柄ニ非ズト雖モ之レ無智ナル貧民階級ガ永年慣行シ來リタル因習性ニシテ且其蓄積ノ如キモ甚ダ少額ニ過ギザレバ之ヲ貯蓄ト看做シテ課税ノ財源トナスハ宜シカラズ多數印度人ハ往時留比ノ價值ヲ見ルコト銀ノ夫

レノ如ク何時ニテモ些少ノ費用ニテ其裝飾物ヲ留比ニ變換シ得タリ然レドモ造幣局閉鎖セラレテ銀ノ自由鑄造ヲ求ムル能ハザルニ到リ此變換ノ方法モ廢レ留比ハ銀ヨリ一層價值アルモノトナレリ兩者ノ交換ハ無智ナル貧民階級ニトリテハ全ク思ヒモ寄ラザリシガ偶々其所有銀ヲ留比ニ比シ減價スルノ結果ヲ生ジ將來銀ニテ貯蓄ヲ爲ス場合ニハ留比ニ較ベ有利ナル場合ニテ之ヲ取得スルノ機會ヲ與ヘタリ此留比對銀ノ變遷ニ加フルニ銀輸入税ナル新分素ハ更ニ革新ヲ齊シ從來銀ヲ購入シ來リタル者ハ凡テ租税ヲ徵收セラル、ニ至リタリ。其税額ハ素ヨリ僅少ナレドモ其故ヲ以テ之ヲ承認スルノ謂レトナラズ何トナレバ課税ノ主義ニシテ許容セラル、時ハ常ニ増税セラル、ノ危險アルハ過去ノ實證シタル所ナレバナリ。

此ノ如ク貨幣制度ノ銀ヨリ金ニ變更セラレタル爲メ銀ノ留比價ハ一大變動ヲ受ケタルニ加フルニ銀輸入税ノ實施アリ多數人民ノ貯蓄ニ關ス

ル永年ノ傳習ト習慣トハ爲メニ著シク阻害セラレタリ然レドモ貨幣本位ノ變更ニハ有力ナル理由アリシガ故ニ之ニ反對スベキ由ナキモ輸入税ニハ果シテ十分ナル理由存シタルヤ人民ノ貨幣ニ對スル習慣性ニ對シ政府ハ果シテ公平ナル觀念ヲ以テ該輸入税ヲ設定シタルヤ余ハ如何ニ考フルモ此課税ハ印度人民ノ健全ナル經濟的發展ヲ計ルモノト信ズル能ハザルナリ。

銀輸入税ハ實際上亦他ノ方面ヨリモ反對セラレ得ベシ即チ輸入セラレタル銀ニシテ再輸出セラルル場合最初支拂ヒタル税額ハ全部拂戻サレザル爲メ印度ノ購買者ニ不當ノ重荷ヲ負ハスノ結果ニ階ルベシ此結果トシテ印度ノ銀塊市場ハ他ノ銀塊市場ニ對立シ不利益ナルヲ免レザルベク再輸出セラルベキモノモ尙印度ニ殘留スルノ餘義ナキニ立チ至ルベシ此市場ノ不利益ハ當然銀塊所有者ノ上ニ影響シ來リ其所有銀ヲ處分シ得可キ機會ヲ逸シ去ルノ憾アラシキ輸入ノ際支拂ヒタル租税ハ賣却ニ際シ市價ヨリ控除セラ

ルベク夫レ丈ケ他市場ニ於ケル賣人ニ對シ一步ヲ輸スルヲ免レザレバナリ。

(二) 印度ノ銀行問題 印度ハ一、八〇二、六

五七平方哩ノ面積ヲ有シ二九、七四八、二二八人ノ住民ヲ包容セル二、二五三ノ都市ト二八五、四〇六、一六八人ノ人口ヲ數フル七二〇、三四二ノ村落ヲ有ス一九一七年十二月卅一日ノ調査ニ據レバ在印度銀行總數ハ僅ニ四〇二箇ニシテ而カモ其多クハ大都市ニ集中セリ即チ同日全印度ニ於テ銀行事務所ヲ有シタル都市ハ僅ニ一六五市ニ過ギザリキ。然ルニ四千八百萬ノ人口ヲ有スル英帝國ハ九、一三八ノ銀行ヲ擁シ八百四十六萬ノ人口ヲ有スル加奈太ハ約四、〇〇〇ノ銀行支店アリ然ルニ印度ニハ二九四、八七五、〇〇〇ノ無學文盲ナル人民アリ普通讀ミ書キヲ爲シ得ルモノハ一八、五三九、五七八人ニシテ此中英語ヲ解スルモノハ僅ニ一、六七〇、三八七人ニ過ギザルナリ。此莫大ナル而カモ散在セル人口ヲ包容セル印度ハ僅カ一六五ノ地點ニ近

世銀行業ヲ把持セルニ過ギザレバ一般財政上ノ運行モ不充分ニシテ從テ貨幣ハ果シナク諸所ニ蓄積蟄伏セラル、ニ至ル。

去レバ印度ニハ銀行業ノ發展擴張セラルベキ餘地尠カラズ全國ヲ通ジ死藏セラレツ、アル遊金而已ニテモ計リ知ルベカラザルモノアルヲ以テ之レヲ徵收シテ銀行ノ準備金ニ繰入レンカ當ニ所有者自身ノ利益ナル而已ナラズ商業界ノ利益トナリ惹テハ國家ヲ裨益スル所決シテ鮮少ナラザルベキナリ但シ其開拓ハ徐々タルベク急激ニ事ヲ運バントスルノ不可ナルハ言ヲ須ヒズ。

或ル者ハ説テ曰ク銀行業ヲ發達セシムルコトハ貨幣ニ關スル不利不便ヲ匡正スル所以ナリト然レドモ余ヲ以テ見レバ之レ馬ノ前ニ馬車ヲ持チ來ラントスルガ如ク本末ヲ顛倒シタルモノナリ。近世銀行業ノ發展ニ必要缺クベカラザル第一要素ハ一般公衆ヲシテ絶對的ニ信用セシムルニ足ル貨幣制度ヲ設定スルニ在リ。信用制度ハ貨幣制度ヨリ生ズル難問題ヲ壓服スルコト能ハ

ズ貨幣制度ガ其成立分子タル貨幣價值ノ如何ニ
ヨリ多大ノ變動ヲ受クルコトハ方今留比對「ソ
ペレン」比價ノ變更ニヨリ實證セラレタリ如何
ナル信用制度モ貨幣ノ此缺陷ヲ救治スルニ由ナ
シ。然レドモ之ト反對ニ不健全ナル貨幣ハ信用
制度ヲ危殆ナラシムベシ。故ニ余ノ見解ニ依レ
バ印度ノ貨幣ヲ一大銀行制度ノ下ニ運用セント
スルヨリモ先ヅ以テ其貨幣制度ヲ特ニ鞏固ナル
且健全ナルモノト爲スニ若カザルナリ。」(完)

神戸高等商業學校 商業研究所第二回

講演會記事

神戸高等商業學校商業研究所ニ於テハ、其第
二回講演會ヲ去ル大正十年五月七日(土曜)午後
七時同校大講堂ニ於テ開催シタリ。天候微雨。
當日左記ノ講演アリタリ。

一、開會ノ辭

瀧谷善一氏

瀧谷教授ハ先ヅ簡單ニ神戸高等商業學校商業
研究所ノ組織目的事業ヲ説明シ、其研究發表ノ
一方法トシテ此ニ第二回講演會ヲ催セル旨ヲ述
ベテ開會ノ辭トス。

一、産業代議制ニ就テ

丸谷喜市氏

丸谷教授ハ歐洲戰爭ガ我々ニ齎シタル二ツノ
注目スベキ產物トシテ、國際聯盟ト産業代議制
トノ二者ヲ舉ゲ、共ニ我々ノ意志ト力トニ依リ
テ育テラレ、發達セシメラレ得ベキモノナルヲ
述べ、茲ニ産業代議制ニ關シテ各國最近ノ狀況
ヲ詳細ニ亘リテ説明ヲ與ヘ若干ノ批判ヲ試ミタ